

☆障がいのある児童生徒などへの配慮 ～保健体育編（中学校）～



中学校学習指導要領解説保健体育編に掲載されている内容をまとめました。

* 高等学校については、「保健体育編・体育編（高等学校）」をご覧ください。

【中学校 保健体育の配慮】

1 見えにくさのため活動に制限がある場合

身体の動きに制約があり、活動に制限がある場合



【10の視点*1】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ ③道具の操作の困難さ ④移動上の制限 ⑤健康面や安全面での制約

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

不安を軽減したり安全に実施したりすることができるよう、活動場所や動きを事前に確認したり、仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決めたり、音が出る用具を使用したりするなどの配慮をする。

生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるよう、用具やルールの変更を行ったり、それらの変更について仲間と話し合う活動を行ったり、必要に応じて補助用具の活用を図ったりするなどの配慮をする。

2 リズムやタイミングに合わせて動くことや複雑な動きをすること、

ボールや用具の操作等が難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ②聞こえにくさ ③道具の操作の困難さ *ボディイメージの把握の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

動きを理解したり、自ら積極的に動いたりすることができるよう、動きを視覚的又は言語情報に変更したり簡素化したりして提示する、動かす体の部位を意識させる、操作が易しい用具の使用や用具の大きさを工夫したりするなどの配慮をする。

3 試合や記録測定、発表などの状況の変化への対応が求められる学習活動への

参加が難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ⑦心理的な不安定 ⑧人間関係形成の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

生徒の実情に応じて状況の変化に対応できるようにするために、挑戦することを認め合う雰囲気づくりに配慮したり、ルールの弾力化や場面設定の簡略化を図ったりするなどの配慮をする。

* 1：小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説の各教科等に示されている、学習活動を行う場合に生じる困難さ(①見えにくさ②聞こえにくさ③道具の操作の困難さ④移動上の制約⑤健康面や安全面での制約⑥発音のしにくさ⑦心理的な不安定⑧人間関係形成の困難さ⑨読み書きや計算等の困難さ⑩注意の集中を持続することが苦手)を整理して、当センターでは、【10の視点】として位置付けています。

4 日常生活とは異なる環境での活動が難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ(例) ⑦心理的な不安定

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

不安を解消できるよう、学習の順序や具体的な内容を段階的に説明するなどの配慮をする。

5 対人関係への不安が強く、他者の体に直接触れることが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ(例) ⑦心理的な不安定 ⑧人間関係形成の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

仲間とともに活動することができるよう、ロープやタオルなどの補助用具を用いるなどの配慮をする。

6 自分の力をコントロールすることが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ(例) ⑦心理的な不安定 ⑧人間関係形成の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

状況に応じて力のコントロールができるよう、力の出し方を視覚化したり、力の入れ方を数値化したりするなどの配慮をする。

7 勝ち負けや記録にこだわり過ぎて、感情をコントロールすることが難しい

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ⑦心理的な不安定 ⑧人間関係形成の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>



状況に応じて感情がコントロールできるよう、事前に活動の見通しを立てたり、勝ったときや負けたとき等の感情の表し方について確認したりするなどの配慮をする。

8 グループでの準備や役割分担が難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ(例) ⑧人間関係形成の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

準備の必要性やチームで果たす役割の意味について理解することができるよう、準備や役割分担の視覚的な明示や生徒の実情に応じて取り組むことができる役割から段階的に取り組ませるなどの配慮をする。

9 保健の学習で、実習などの学習活動に参加することが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ(例) ①見えにくさ ②聞こえにくさ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

実習の手順や方法が理解できるよう、それらを視覚的に示したり、一つ一つの技能を個別に指導したりするなどの配慮をする。